4. 令和８年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 （令和6年度策定）	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①共生社会の実現にむけて、授業改善を中心とした教育活動を推進して課題解決力を育むとともに、個に応じた学習機会の拡大を促す。 ②部活動、生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性、主体性を育む。	①確かな学力の定着と向上のため、個に応じた指導を行う。課題に取り組む中で、生徒自らの問題解決能力を育成していく。学び直しを通じて生徒が「分かる喜び、できる喜び」を実感し、学習意欲の向上につなげる。インクルーシブ教育の理念のもと、多様な学びに対応した柔軟な学習支援を拡充する。 ②生徒会行事では、生徒が企画・実践・改善を主体的に行い自治的な力を高める。部活動を通じて自立・自律し、社会貢献できる生徒を育成する。また、生徒の活動の成果等を発信し、地域とのつながりを意識した活性化を図る。	①習熟度別授業や補習により個に応じた指導をする。 ・生徒の課題への取り組みを観察し、適切な助言を行い問題解決能力の向上を図る。 ・電子黒板などの ICT を効果的に活用し「分かる喜び、できる喜び」を味わえる授業を実践する。 ・ICT 利活用や TT による授業実践に関する校内研修を通して、職員の授業力向上を目指す。 ・インクルーシブ教育の理念のもと、誰一人取り残されない学びの保障に取り組む。 ②企画・実践・改善を意識した取り組みを行い、自立・自律につながる活動内容を計画する。 ・学校行事及び部活動の活動状況をホームページや学校説明会で積極的に発信することを通じて学校生活の活性化を図る。	①「生徒による授業評価」の回答で、個に応じた指導がされていたか、また、生徒が主体的に問題解決に取り組めたか、について7割以上が肯定的に答えているか。 ・電子黒板などの ICT を効果的に活用した授業が増加したか。 ・インクルーシブ教育を実践し、TT によるわかりやすい授業や個別のニーズに配慮した学習指導を実践したか。 ・外部機関の講師を招聘し、教員の授業力向上に役立てられたか。 ②生徒会行事後の振り返りアンケートで、自主的・主体的に学校行事に取り組むことができたと回答した生徒が6割以上いたか。 ・部活動を通じて生徒が自立・自律して、社会貢献できるように成長できたか。
2	生徒指導 ・支援	①基本的な生活習慣を確立し、ルールやマナーを自発的に守る生徒の育成を図る。 ②多様な生徒に対してそれぞれの課題に応じた支援体制を構築する。	①規範意識の向上を図るとともに、生徒自身が集団の中での自分の役割や行動を自覚し、周囲と良好な関係を築けるよう、自律的な行動力の育成を目指す。予防的な指導に加え、生徒の内面に寄り添った対話的な関わりを通じて、問題行動の未然防止に取り組む。 ②生徒一人ひとりの変化を見逃さず、日常的な関わりを通して信頼関係を深めることで、より早期の課題発見と対応を可能にする。全職員が共通理解を持ち、組織的・継続的な教育相談体制を構築する。	①教職員間で生徒の情報共有を密に行い、生徒への積極的な働きかけにより、規範意識を高め、生徒の自律を促す。 ・SNS トラブル防止教室や交通安全教室等の企画内容を見直し、効果的な方法について検討し、実施する。 ②生徒へのこまめな声かけや面談を通して心身の変化に気づき、困り感を聞き取る等、速やかな問題解決を図る。 ・生徒理解に努め、必要に応じて SC や SSW、専門機関と連携するなど、組織的・継続的な支援を行う。	①特別指導等の指導件数が減少したか。 ・学校や社会のルールを守って、モラルやマナーの向上が見られたか。 ②SC や SSW、外部の相談機関等と連携し、効果的な支援につなげることができたか。 ・ケース会議を適切に開催し、迅速に対応できたか。

3	進路指導 ・支援	①一人ひとりのキャリア発達のために、社会的・ 職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育てる。 ②自己理解の深化と自己受容や勤労観の確立を目指し、進路指導の充実を図る。	①1学年～3学年「進学・就職ガイダンス」について体験的な学習機会等を取り入れるとともにきめ細かな指導・支援をする。 ②インターンシップや大学訪問など、自ら学ぶ態度を育成し、自己理解や職業選択につながる活動を取り入れる。また、特別募集生等、多様な生徒のニーズをくみ取り、保護者と連携して生徒の進路実現を図る。	①年間計画に基づき、各学年が「進路ガイダンス」を実施する。 ・進路ガイダンスの中で生徒に体験的な学習機会を提供する。 ②インターンシップ等の参加について生徒に積極的に推奨するとともに、職場体験の機会を設け、生徒一人ひとりの学びを支援する。 ・三者面談等を活用し生徒及び保護者に進路・進学に係る必要な情報について丁寧に説明する。 ・グループ内において、最新の進路情報等に基づき、進路支援の向上につながる研修を実施する。	①年間計画に基づき、「進路ガイダンス」を実施できたか。 ・生徒一人ひとりが「体験的な学び」ができたか。 ②インターンシップについて、生徒一人ひとりが活動の目的を理解し、積極的に参加ができたか。 ・三者面談や保護者対象説明会を設定し、丁寧な説明ができたか。 ・生徒・保護者の困りごと等を理解し、キャリア教育の視点から生徒・保護者と協力して問題解決を図ったか。 ・グループ内での研修を実施し、進路情報・知識を更新し、指導技術の向上を図ったか。
4	地域等 との協働	①地域・保護者等との連携・協働を推進し、信頼される学校づくりに取り組む。	①生徒の主体的な活動や学びの成果を多様な手段で継続的に発信し、地域や保護者との双方向のコミュニケーションを深めることで、本校の教育活動への理解と信頼をさらに高める。広報の質と範囲を拡充し、開かれた学校づくりを推進する。 ②インクルーシブ教育実践推進校としての取り組みを、説明会や見学会、情報発信を通して継続的かつ具体的に伝えることで、学校の特色や教育理念を広く共有し、地域や関係機関との連携基盤をより強固なものとする。	①ホームページの充実を図り、夏の学校見学会と 10 月、11 月の学校説明会で本校の魅力や特色を積極的に行う。 ・ホームページで行事などの記事を充実させ、生徒がどのような学校生活を送っているのかを感じられるような発信を図る。また、学校説明会等で本校の魅力や特色を発信する。 ②特別募集生等の進路実現に向けた支援の1つとして職場体験（インターシップ）を設定し、自立と自律の醸成に努める。 ・企業や外部の教育機関との連携により実践的かつ今日的な情報を収集し、生徒の進路支援に生かす。	①本校の魅力や特色を適切に、定期的に発信することができたか。 ・卒業生や大学・専門学校・職業人を招聘し、必要となる情報や知識を提供したか。 ②個別指導計画に基づいた支援について内容を精選し、職場体験等キャリア支援につなげたか。 ②生徒が活動後に作成した報告書の内容を共有し、学んだことや感じたことを他者と共有できたか。またそのことを通して、共に生きる力が育成されたか。
5	学校管理 学校運営	①学校運営に関して保護者や地域住民等の意向を反映して協力を得るとともに、学校安全管理を組織的に推進する。 ②事故・不祥事防止対策を徹底する。 ③働き方改革、ICT 利活用等により教育環境の整備を進め、円滑な学校運営を実施する。	①防災訓練の実施において、各種災害に対応し、生徒が積極的に参加できる訓練内容になるよう留意する。 ②事故・不祥事防止のための環境整備を行い、ICT 機器の管理を一元化する。また私費会計処理について、遅滞なく処理が進むよう努める。	①各学期に防災訓練を実施し、毎回異なる災害を想定した訓練を行う。 ②業務アシスタントと連携し、スムーズな会計処理を目指す。 ②情報機器管理室を整備するとともに、必要な物品の更新も進め、円滑な ICT 利用と効果的な活用に貢献できるよう努める。	①実施後のアンケートの記述解答欄を記入し、訓練を自分事としてとらえられた生徒が半数以上いるか。 ②会計処理において事故が起きなかったか。 ②情報機器についての管理が一元化され、スムーズな機器利用が行えたか。